

茶郷川治水協議会会報

第29号

令和2年9月25日 発行

発行元 茶郷川治水協議会事務局
(小千谷市建設課)

茶郷川治水協議会 勉強会を開催しました

日時：7月10日（金）

場所：小千谷市役所 大会議室

演題：「茶郷川の治水対策を考える」

（講師：新潟県長岡地域振興局地域整備部
計画専門員 小野 直哉 氏）

参加者：29名



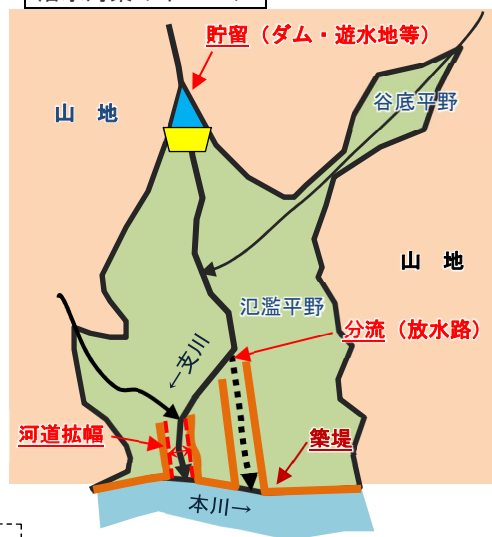
主な内容

講話では、近隣の他の河川の状況と茶郷川との比較も交えながら、以下のような趣旨のお話がありました。

【治水対策について】

- 治水対策とは、流域全体から集まる水「外水」が河川から氾濫せず、安全に流下できるようにすることである。氾濫が無くなることで街は発展を遂げてきた。
- 治水対策としては、①川幅拡張や築堤による河道拡幅、②放水路による分流、③ダムや遊水地での貯留があるが、茶郷川ではバック堤防による放水路で信濃川に自然排水する治水対策が検討されてきた。

治水対策のイメージ

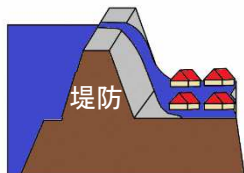


バック堤防

本川の洪水が支川に逆流して氾濫するのを防止するため、支川の堤防で影響の及ぶ範囲を本堤と同じ高さ、構造、強度とした堤防。

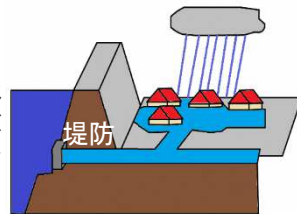
外水氾濫

河川の堤防から水が溢れ出るなどして市街地が浸水すること。



内水氾濫

短時間で大雨が降るなどし、河川へ排水する川や排水路の排水能力の不足などが原因で、降った雨を排水処理できなくて引き起こされる浸水害。



- 小千谷市域の信濃川は国が管理し、堤防は高い安全水準で計画・整備されているため、昨年の台風19号出水でも越水や破堤はなく氾濫を防いだ。
- 本川の背水影響で被害が生じないように、支川にも信濃川と同等の堤防が必要で、近隣の渋海川のように多くの支川でバック堤防が整備されている。
- バック堤防には、信濃川合流水位が高くて、支川の上流の標高が高く自然排水となる利点がある。

参考：洪水を防ぐ信濃川堤防



令和元年10月13日10時40分撮影：茶郷川合流点での出水状況

【近年の大雨の状況】

- 茶郷川流域の降雨を統計的に分析すると、200mm/24h程度を超える大雨が降る可能性は概ね年に2%（1/50確率）となる。1/50とは「50年に一度しか雨が降らない」と誤解されやすいが、台風19号の豪雨のように、同程度の大雨は全国どこかで降っている状況である。平成29年には、堀之内や川口など近隣の地域でも降り甚大な浸水被害が発生した。
- 茶郷川では、ある程度強い雨なら1/10以下でも被害が発生している。茶郷川での主な氾濫はこの20年間で3回、この10年間では2回となっている。被害規模としては、下流の工業団地が浸水した平成23年7月の水害が一番大きい。
- 工業団地の浸水被害は、自治体（住民全員）にとって大きな損失であると認識してほしい。水害からの復旧が困難で企業が撤退する、地域の産業・経済が衰退し人口が減るなど大きな影響が考えられるが、最近発生した大災害の中には、自治体崩壊も危惧されるような壊滅的な被害もある。
- 県は、直近10年間で宅地・事業所への浸水被害が2回発生している茶郷川は優先度が高いと考え、整備の実施に向けて河川整備計画原案の策定を進めている。

【社会情勢の変化と公共事業を取り巻く情勢】

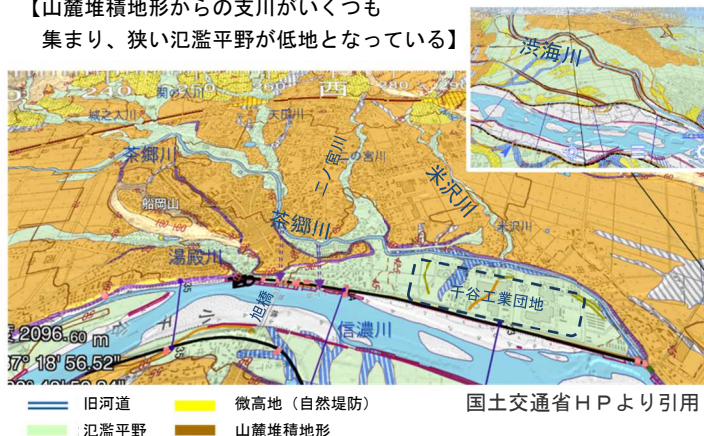
- 近年の豪雨は局地化・頻発化する傾向だが、県の河川整備関係予算は約20年前からみると逆に大幅に減っていて、選択と集中により事業箇所数を絞り込んでいる状況。
- 公共事業（国交付金）には、費用対効果の公表や河川整備計画への掲載など、計画内容に社会の目が光る仕組みができてきている。多額の費用がかかり効果が出るまで長い期間を要す内容の事業は実施が困難となった。

【茶郷川の治水課題、治水対策の方向性】

- 元は信濃川に別々に合流していた茶郷川と米沢川だが、今は一本になって信濃川に樋門で合流している。そのため、下流の氾濫平野部は水害の危険性が最も高い。
- 茶郷川では、浸水被害が頻発している宅地と工業団地の安全性を早期に高める整備を第一に進めるべきであり、短い距離で信濃川への排水が可能となる放水路は最適な治水対策である。

【茶郷川の治水地形】

【山麓堆積地形からの支川がいくつも集まり、狭い氾濫平野が低地となっている】



氾濫平野 河川が氾濫を繰り返し、流路を変え、土砂を堆積してつくりあげた平野

以上

【あとがき・事務局より】

近年の大雨の状況を鑑みると、たびたび氾濫を繰り返している茶郷川の治水対策は、待ったなしの状況であり、その対策の考え方について、県の担当者の方から協議会の役員の皆様に詳しくご説明いただきました。引き続き、新潟県による計画策定への支援として、関係者の合意形成に取り組んでいきたいと思っております。

今後の取組

新潟県は茶郷川の河川整備計画原案の策定を進めていますが、地元への説明については、もうしばらく時間が必要です。

それまで小千谷市では、治水対策の必要性や内水対策について、地元との意見交換会を行いたいと考えています。詳細が決まりましたら、改めてお知らせします。